

2024年8月17日

文部科学大臣 盛山正仁様

日本キリスト教協議会（NCC）教育部
全国キリスト教学校人権教育研究協議会

令和書籍『国史教科書』の検定合格に抗議し、撤回を求める

かつての日本の侵略戦争への反省に立って、平和教育・人権教育に取り組んでいる立場から、わたしたちは今年4月、文部科学省が「検定未了」としていた令和書籍『国史教科書』を中学校の社会科教科書（歴史）として、追加で「検定合格」させたことに強く抗議するとともに、撤回を求める。

この書籍は、最初から最後まで、天皇を中心として国家形成してきた日本は、他国と比べて優秀で特別な国という、まるで戦前の「国史」教科書に戻ったような「皇国史観」で貫かれています。したがって、かつての日本の侵略戦争と植民地支配の加害の事実への反省がまったく見られません。例を挙げると、「韓国併合」=韓国の植民地化は大韓帝国の皇帝から依頼されたもので、むしろ日本は犠牲を払って韓国の近代化に貢献したという立場に立ち、植民地支配を正当化しています。関東大震災時の朝鮮人・中国人虐殺については一言の言及もなく、日本軍「慰安婦」=性奴隸制問題については、強制性や戦場の連れまわしを否定して、歴史研究で明らかになっている事実を改ざんし、韓国が問題を「蒸し返している」などと韓国に責任を押し付けています。過去の歴史の事実を学ぶ教科書であるのに、「戦争賛美」の視点から事実を捻じ曲げ、「愛国心」を喚起しようとしているのです。

ひとつひとつ問題を指摘すると限りがありませんが、特に教育に携わる者として見過ごせないのは、この書籍が戦前の国家体制を支えた「教育勅語」を称賛し、「よき伝統」と評価していることです。天皇のために、国家のために死ぬことが最も尊い生き方であるという価値観を国民に植え付け、多くの未来ある若者を戦死に追いやり、多くの子どもを戦争協力に駆り立て、多くのアジアの民衆の命を奪った「教育勅語」を礼賛することは許されません。

文部科学省の図書検定基準には「近隣のアジア諸国との間の近現代の歴史的事象の扱いに国際理解と国際協調の見地から必要な配慮がされていること」と明記されています（第3章1の（6）、https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/kentei/1411168.htm）。この基準に照らせば、到底あり得ない「検定合格」です。

令和書籍は中学生ばかりでなく、教職員や社会人が「国史」を学び直すために使用してほしいと、表紙に「検定済 合格」の文字を入れた同書を市販しています。歴史学の成果を無視し、教育史の反省を踏まえない書籍に検定合格の「お墨付き」を与えた文部科学省の責任は重大です。わたしたちはこれまで、歴史修正主義に立つ育鵬社、自由社の歴史ならびに公民教科書に異議申し立てをしてきました。この度は、令和書籍『国史教科書』の検定合格を撤回するよう、強く求めます。

<連絡先>

全国キリスト教学校人権教育研究協議会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-21

日本キリスト教協議会（NCC）教育部

Tel & Fax 03-3203-0731 E-mail: nccjedu@gmail.com